

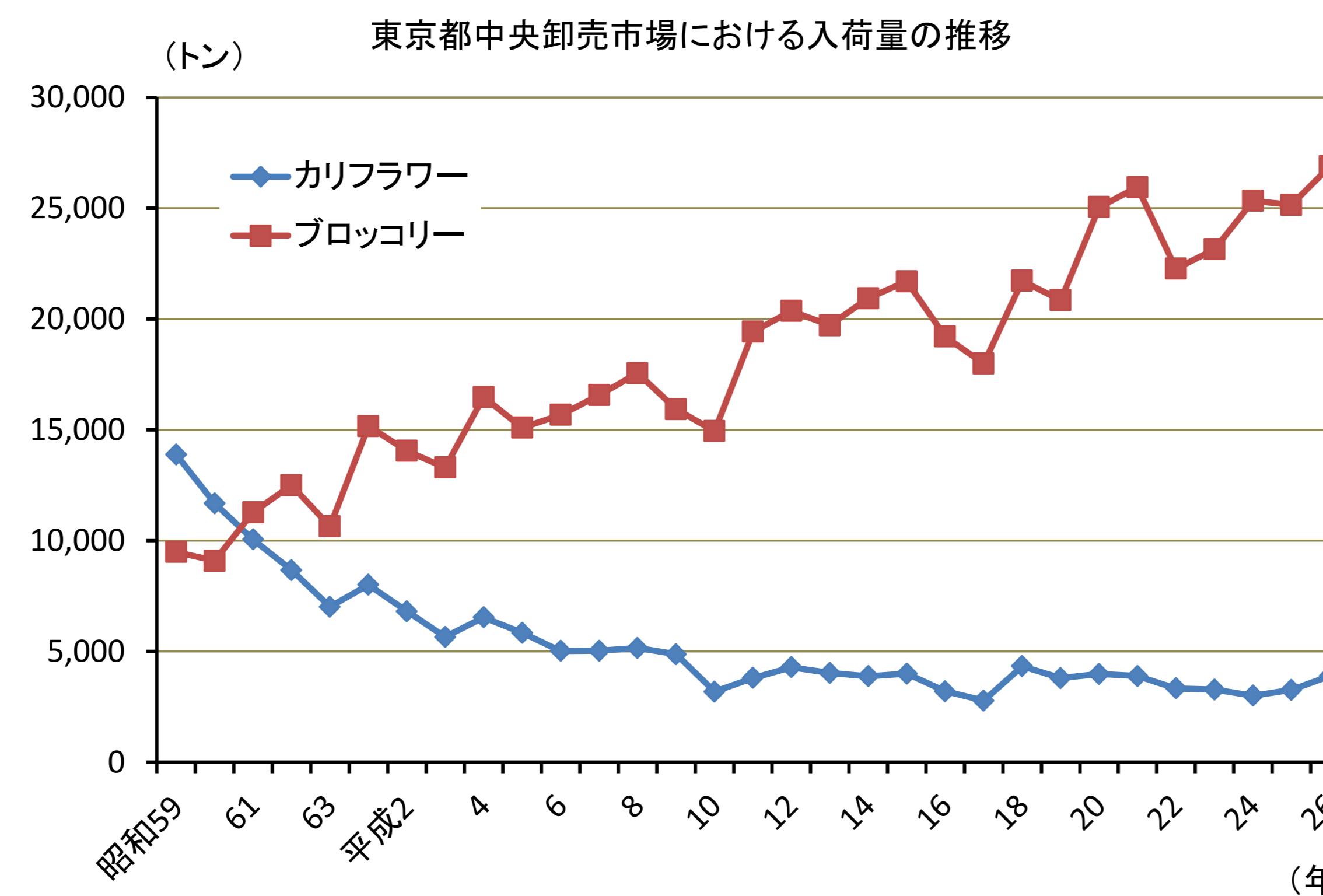
トピック — ブロッコリーの需給動向等について —

今回は、作付面積及び出荷量が増加している野菜の中で、近年、その増加が著しく、旬でもあるブロッコリーの需給動向等について紹介する。

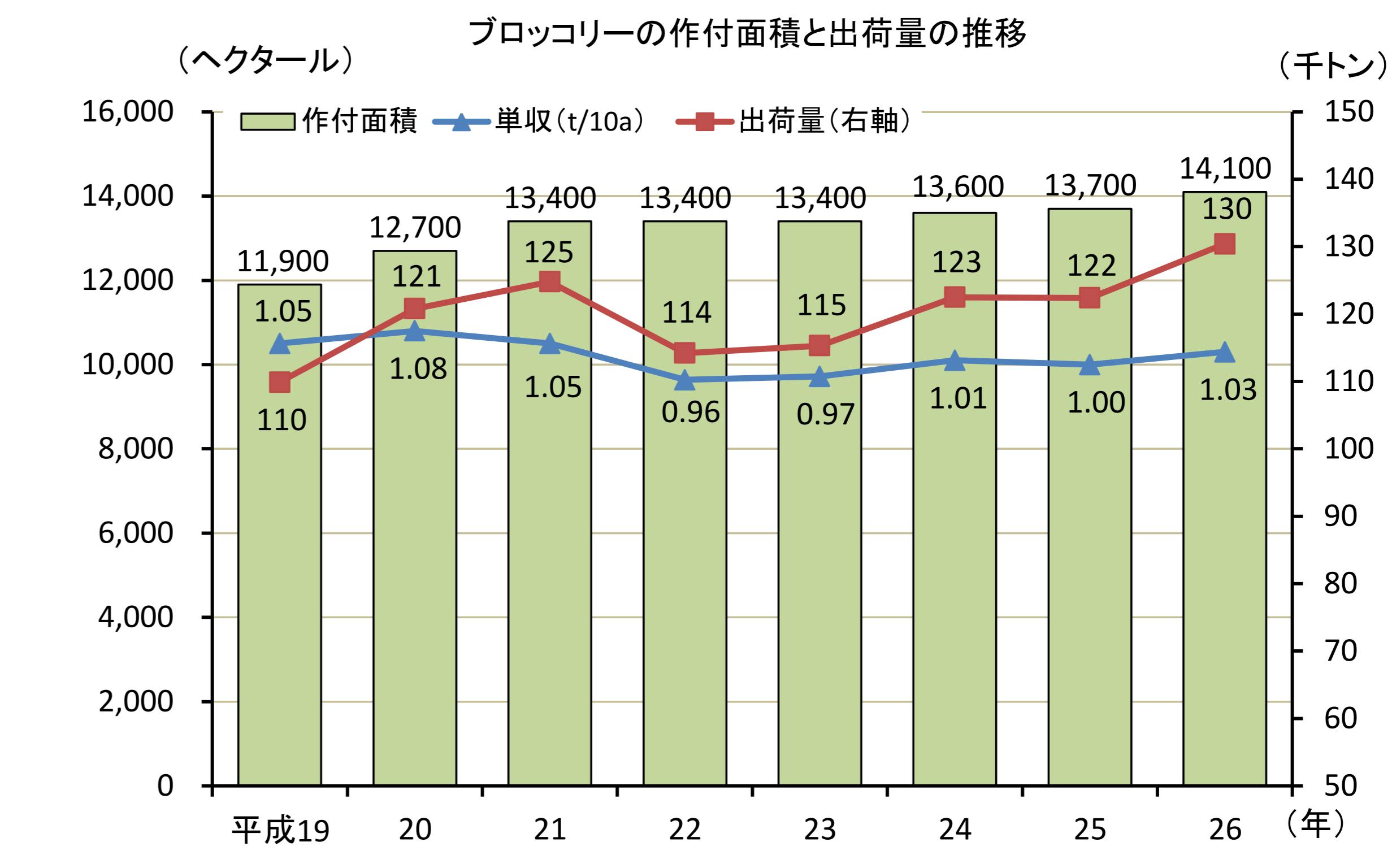
ブロッコリーは、カリフラワーと同じキャベツの仲間で、ともに明治時代に日本に入ってきた。ブロッコリー、カリフラワーともに当時は普及しなかったが、戦後、生野菜を使ったサラダが普及し始める。昭和30年代後半からカリフラワーの需要が高まった。ブロッコリーは、栄養価の高い緑黄色野菜として、50年代以降本格的に普及し、先に普及したカリフラワーより人気が高まった。61年には東京都中央卸売市場における入荷量が逆転し、以降、ブロッコリーの入荷量はカリフラワーを上回っている状況が続いている。

平成26年のブロッコリーの作付面積は1万4100ヘクタール、出荷量は13万400トンとなっており、作付面積、出荷量、単収を19年と26年で比較すると、作付面積が118%、出荷量が119%の増加率となっている一方、単収は微減しており、出荷量の増加は作付面積の増加に負うところが大きい。都道府県別に見ると、北海道(2万1700トン)が最も多く、次いで埼玉県(1万3800トン)、愛知県(1万3300トン)となっており、これら3県で全国のおよそ4割を担っている。また、香川県は作付面積が173%、出荷量が159%、長崎県は作付面積が165%、出荷量が160%と著しい増加を示している。東京都も15位の茨城県に続く出荷量(1750トン)となっており、都市農業の重要な作目となっている。

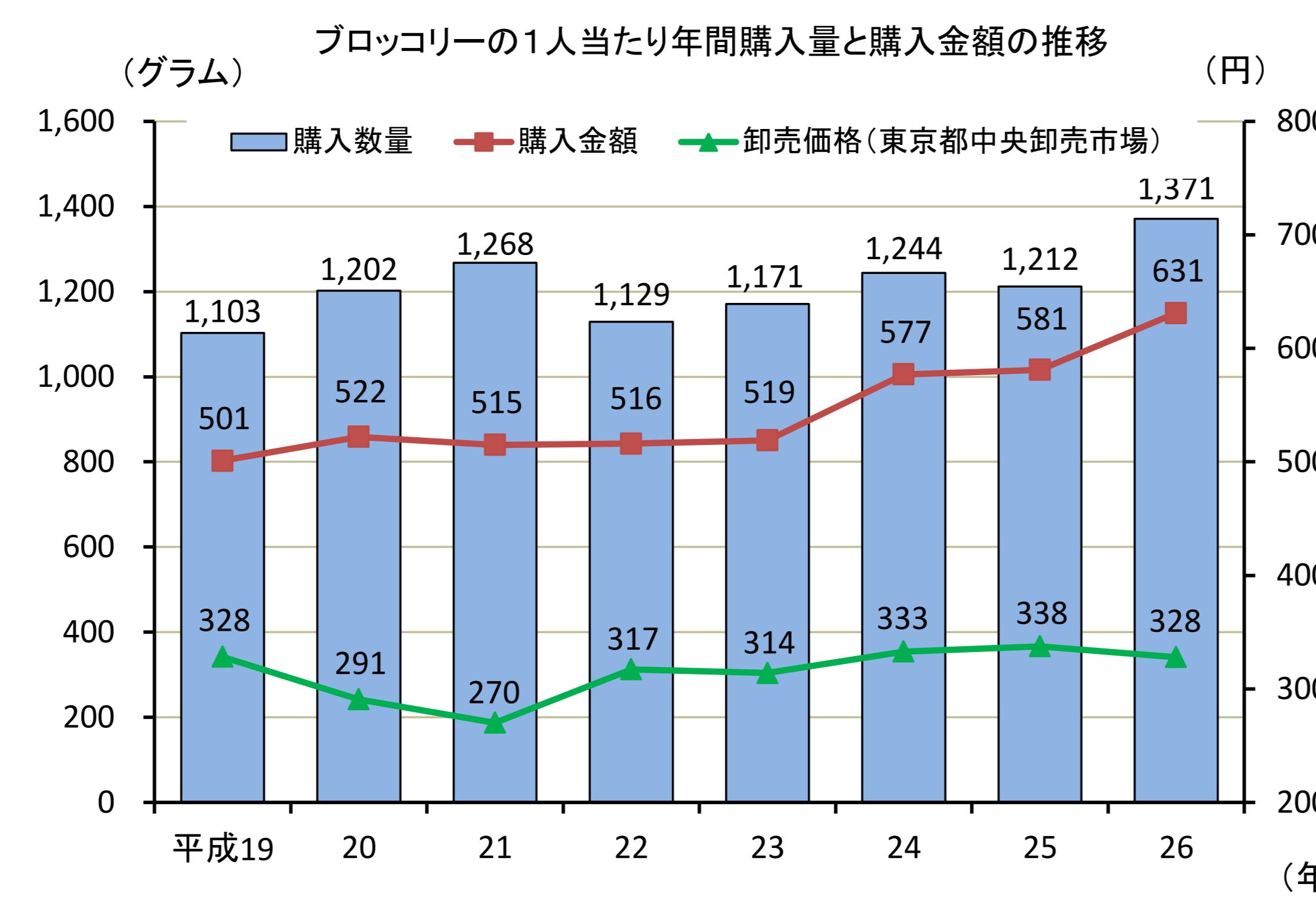
総務省「家計調査報告」によると、1人当たりのブロッコリーの購入量(含む冷凍)は、健康志向から近年は増加傾向で推移し、26年は1371グラムとなっている。年代別にみると、20歳代が最も少なく、60代が最も多くなっており、全体として年齢が高いほど購入量が多くなる傾向にある。また、調理の簡便性から冷凍ブロッコリーの消費も増加しているほか、発芽した芽を食べる「スプラウト」も栄養面から注目され、人気となっている。



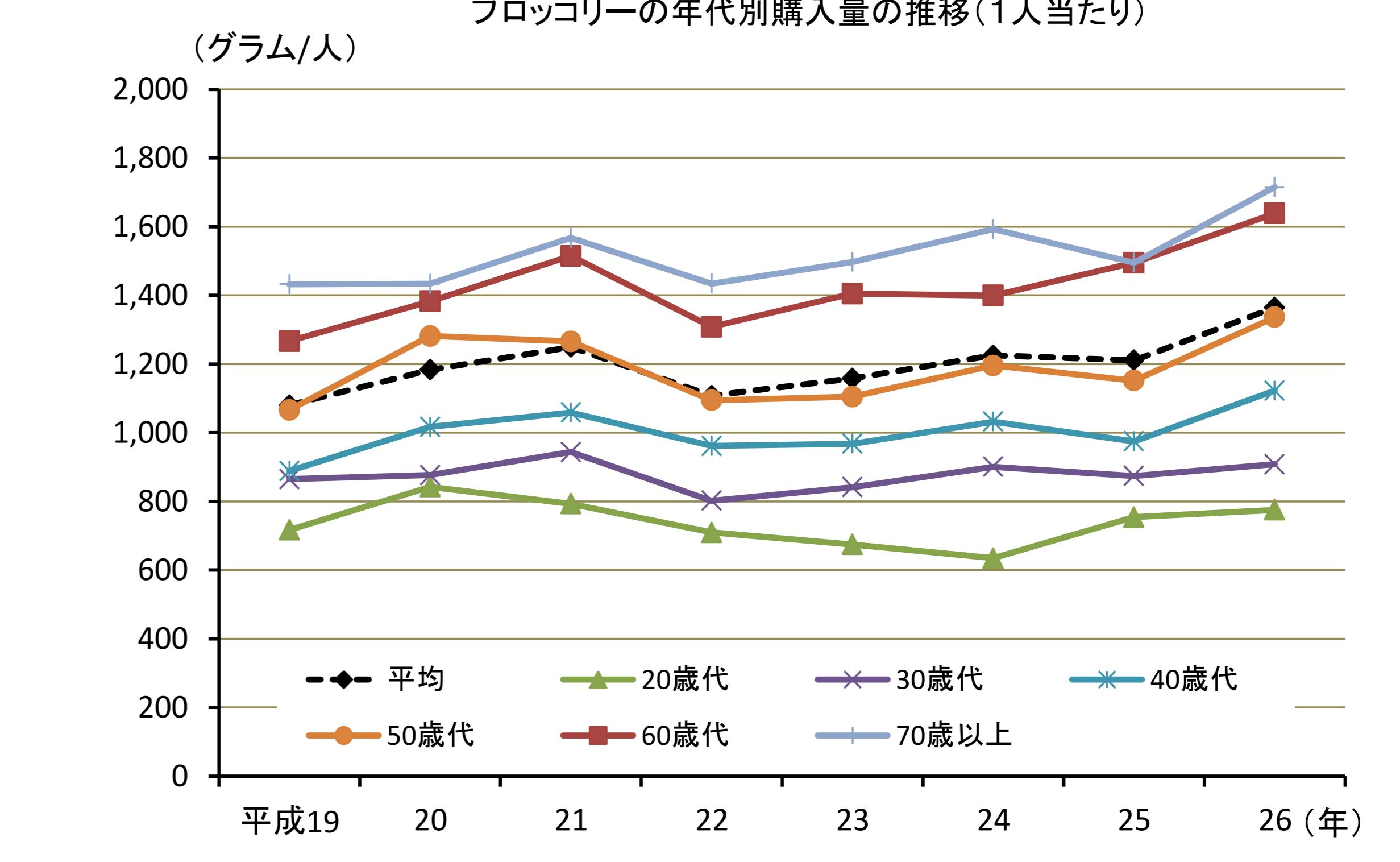
資料:ベジ探(原資料:東京・大阪「市場月報」)



資料:ベジ探(原資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」)



資料:ベジ探(原資料:総務省「家計調査報告」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く))及び東京・大阪「市場月報」)



資料:ベジ探(原資料:総務省「家計調査年報(二人以上の世帯)」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。

※無断転載禁ず・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。